【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成17年9月29日(2005.9.29)

【公開番号】特開2004-15565(P2004-15565A)
【公開日】平成16年1月15日(2004.1.15)
【年通号数】公開・登録公報2004-002
【出願番号】特願2002-167797(P2002-167797)
【国際特許分類第７版】
　Ｈ０４Ｒ　1/24
【ＦＩ】
　Ｈ０４Ｒ　1/24　　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成17年5月12日(2005.5.12)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　一対のスピーカユニットと、
　該一対のスピーカユニットを、振動板を電気的に駆動する駆動部同士を対向させ、駆動の軸線が同一直線上に位置する配置状態を保つように、駆動部同士を機械的に連結する結合材と、
　各スピーカユニット毎に、振動板の表面側にそれぞれ配置され、該振動板に音響的な負荷をかけて音響出力を導出させる一対の音響負荷とを含むことを特徴とするスピーカ装置。
【請求項２】
　前記一対のスピーカユニットおよび音響負荷は、前記結合材でスピーカユニットの駆動部同士が連結されている状態で、車両の車体で車室に隣接する隣接空間内に設置され、
　各音響負荷は、該車室内にスピーカユニットからの音響出力を導出する開口部を有することを特徴とする請求項１記載のスピーカ装置。
【請求項３】
　前記一対の音響負荷は、各スピーカユニットの振動板に対して、前記駆動の表面側の空間をそれぞれ覆い、該駆動の軸線の方向に対して垂直な予め定める一方向に、振動板からの音響出力を導出させることを特徴とする請求項１または２記載のスピーカ装置。
【請求項４】
　前記結合材は、各スピーカユニットの駆動部にそれぞれ螺合していることを特徴とする請求項１～３のいずれかに記載のスピーカ装置。
【請求項５】
　一対のスピーカユニットと、
　該一対のスピーカユニットを、振動板を電気的に駆動する駆動部同士を対向させ、駆動の軸線が同一直線上に位置する配置状態を保つように、駆動部同士を機械的に連結する結合材と、
　各スピーカユニット毎に、振動板の表面側をエンクロージャに取付ける部分に介在する緩衝材とを含み、
　結合材は、各スピーカユニットの駆動部にそれぞれ螺合していることを特徴とするスピーカ装置。

【請求項６】
前記スピーカユニットの駆動の軸線の方向に関し、前記結合材の両端と各スピーカユニットの駆動部とには、該結合材を予め定める一方向に回転させることによって、両端でそれぞれスピーカユニットの駆動部との締結が同時に行われるような向きに、ねじ部がそれぞれ形成されていることを特徴とする請求項５記載のスピーカ装置。
【請求項７】
前記スピーカユニットの振動板の前面形状は、横長形状であることを特徴とする請求項１～６のいずれかに記載のスピーカ装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
【課題を解決するための手段】
本発明は、一対のスピーカユニットと、
該一対のスピーカユニットを、振動板を電気的に駆動する駆動部同士を対向させ、駆動の軸線が同一直線上に位置する配置状態を保つように、駆動部同士を機械的に連結する結合材と、
各スピーカユニット毎に、振動板の表面側にそれぞれ配置され、該振動板に音響的な負荷をかけて音響出力を導出させる一対の音響負荷とを含むことを特徴とするスピーカ装置である。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】
また本発明で、前記一対の音響負荷は、各スピーカユニットの振動板に対して、前記駆動の表面側の空間をそれぞれ覆い、該駆動の軸線の方向に対して垂直な予め定める一方向に、振動板からの音響出力を導出させることを特徴とする。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１８】
さらに本発明は、一対のスピーカユニットと、
該一対のスピーカユニットを、振動板を電気的に駆動する駆動部同士を対向させ、駆動の軸線が同一直線上に位置する配置状態を保つように、駆動部同士を機械的に連結する結合材と、
各スピーカユニット毎に、振動板の表面側をエンクロージャに取付ける部分に介在する緩衝材とを含み、
結合材は、各スピーカユニットの駆動部にそれぞれ螺合していることを特徴とするスピーカ装置である。